



地域と伝統の賑わい、納涼祭開催！

うだるような盛夏を迎え、全国各地で夏の祭典開催の情報が行き交いだす中、南青葉台でも納涼祭を開催しました。伝統のある催しで、長らく地域住民のふれあいの場として存在感を持ち続けてきたイベントです。今年の納涼祭は間違いなく過去一番の気合いが入っていましたが、その気合いをはるかに上回って本当にたくさんの方々にご来場いただきました！



近隣校区の皆さんにお越しいただけているのでは？という声が聞こえてきたり、例年なら見ない顔がよく見られたとの声も聞こえてきております。要因は様々あると思いますが、事前に設営し始めていたテント等が「お、なにか始まるのか？」と想像をかき立て、HP や公式 LINE で過去の様子を交えた告知を行ったことが功を奏したのかな？と感じております。

実は南青葉台の納涼祭、ほかの大きな近隣の夏祭りなんかと合わせて Instagram やブログ等で一部紹介されていたんです！ 少しずつ周囲に知れ渡った夏祭りになってきた証拠です。これは地域が誇るべきことかなと思っております。



ただし、いいイベントを作るには労力がつきものです。前例踏襲だけではただ負担を強いるものになりかねません。ここについては良く検証し、「イベント主催者も楽しめて」「地域の皆さんに負担がかからない運営」で、時代に合いつつ伝統を引き継ぐ納涼祭を目指したいと思います。最後になりますが、近隣の皆様、実行委員会ならびにボランティアの皆様、開催に関わってくださった事業者の皆様に感謝申し上げます。

～納涼祭ポスター～

金魚



林友梨奈さんに、お話をお聞きしました

小学生の時は、毎年納涼祭ポスターを描いて、自治会に提出していました。今年は、中学生になったけど納涼祭ポスターを描きたくて、水彩絵具で金魚を上から見た構図で描いてみました。

※愛読者の皆さんへ投稿希望あれば、自治会事務局までご連絡下さい

加賀田地区の民話 第26話

今回は、7月号の今年の干支の巳（蛇）のお話がらみで、コロ（^{つち}槌の子）のお話をご紹介します。ツチノコの本場岐阜県東白川村では、毎年5月3日に「ツチノコフェスタ」が開催され、ツチノコ捕獲者には賞金133万円が与えられます。さあ、加賀田には、ツチノコはいるのでしょうか？

「コロ（^{つち}槌の子）コロゆうんはな、わし見たことないんやけど、わしのおやじかて知とったし、お爺さんかて知とったわ。植林してたらな、こんくらい短い太いのがな、おってんやっちゅうてな、あれな、よう這うて行かんで、コロコロオってマクレて（転がって）行くんやてな、そこらアもうはっきり聞いたわ。それがまた、マクレたら、元んこい上がらんとならんわな、それがどうゆうふうにして上がるんやら、わしや知らんけどな。

あれな、ほんまのコロやったら人襲われへんちゅうてたよ。1メートルそこそこの短いふーとい（太い）やっちゃちゅうことや。」皆さん！ 加賀田の山の中で見つけて、東白川村へ持って行って、133万円もらいませんか？ でも、加賀田のツチノコでは失格なんではないでしょうか？

平成4年刊行 「加賀田地区の民話」 市教育委員会発行より抜粋

自治会の活動状況と予定

*実績

7月13日	定例役員会
7月17日	廃品回収
7月20日	参議院議員選挙
7月26日	南青葉台納涼祭
8月 3日	定例役員会
8月10日	猫被害を話し合う会（第2回）
8月21日	廃品回収

*予定

9月14日	定例役員会
9月15日	敬老の日お祝い品配布
9月18日	廃品回収
10月 1日	国勢調査

編集後記

酷暑の中で納涼祭が開催され、スタッフの皆さんや子どもからお年寄りまでみんなが交流を図りながら楽しむことができました。安全で安心して暮らせるまちづくりのきっかけになることを願っています。

お年寄りから子どもたちまで楽しめた納涼祭

7月26日、南青葉台納涼祭が盛大に行われました。晴天で例年より多数の人が会場に来てくださいました。Instagramにはローカルな情報として掲載もあり、若者や親子連れと小中高生の子どもたちが会場に溢れていました。お楽しみの夜店も前年より数が増え、集まった人達の期待も高まりました。子どもたちからは、夜店で売っている物の値段が安く、好きなものを買えて良かったとの声も聞けました。河南高校「地車」の迫力満点の力強い和太鼓からスタート。子ども盆ダンスでは大人がお手本でマツケンサンバを踊り、終了後にお菓子をプレゼント。夕闇迫り提灯の明かりで、さあ～夏祭り本番抽選会で会場が湧き、響会による音頭取りが檣に上がれば、踊り好きが、江^{ごうしゅう}州^{しゅう}音頭で「宵^{よい}（夜）よいや真^まっ赤^{あか}（朝になるまで）どっこいさのせ」働いた姿を掛け声に商い音頭と由縁があるとか。終了時刻まで踊り続けました。

納涼祭子ども絵画展

南青葉台っ子たちの納涼祭の絵を会場入り口に掲載しました



防災委員スキルアップ実習を実施いたしました

5月25日、発災した時に何をどのようにするかを体験して能力向上を図りました。後日、体験実習を振り返ってより良い意見が出ましたのでご紹介いたします。

テント設営

折りたたみ式になっており両端から均等の力で開閉をする。バランスをみるためのリーダーが指示して2人で行うのが効率的。フレームの可動部分に指を挟まないように注意する必要がある。テントの持ち運びは重量があり大変だった。

搬送・応急手当

担架で搬送する際、負傷者や病人などは全身をゆだねて重くなるので、高齢者が片方を一人で持つのは難しい。4人での搬送が良い。応急処置は出来たがレジ袋が無い場合代用として例えばネクタイやベルトなどを用いる方法も普段から考えておく必要がある。

心臓マッサージ

「知っていて出来る」と「思い出しながら不安な状態です」と「全く知らない」のでは結果も違ってくる。普通救命講習は3年ごとに受講するのが望ましい。今回の実習については言われた通りできていたので良かった。

貯水

だんじり小屋倉庫横の沢水は常に流れ出ているのでこれを利用して生活用水（トイレ・洗濯水など）を確保。水タンクなどに入れて保存する。今回は前日に雨が降ったため簡単に貯水出来たが、水量が少ない時はペットボトルなどを加工して沢水を誘引する工夫をしなければならない。

車いす操作

南青葉台の坂の多いところでは、大柄な方や体重の思い方などは1人で押すのは大変。複数人の介助が必要となった。押す人や引き上げる人用に3～4メートルのロープか紐があるとよい。防災委員会が所有している車いすは介助用でタイヤが小さいため、段差の所は上げにくかった。

トランシーバー通話訓練（7月20日実施）

誰が話をしているかが分かるように、自分の名前を名乗ることがルール。誰に向けて話をしているのかが分かるように、通話相手の名前を呼びかける。続けて伝えたい内容を簡潔に話し、最後に「どうぞ」と声をかけて送信ボタンを離す。通話内容は完結かつ正確に伝えるように心がける。

